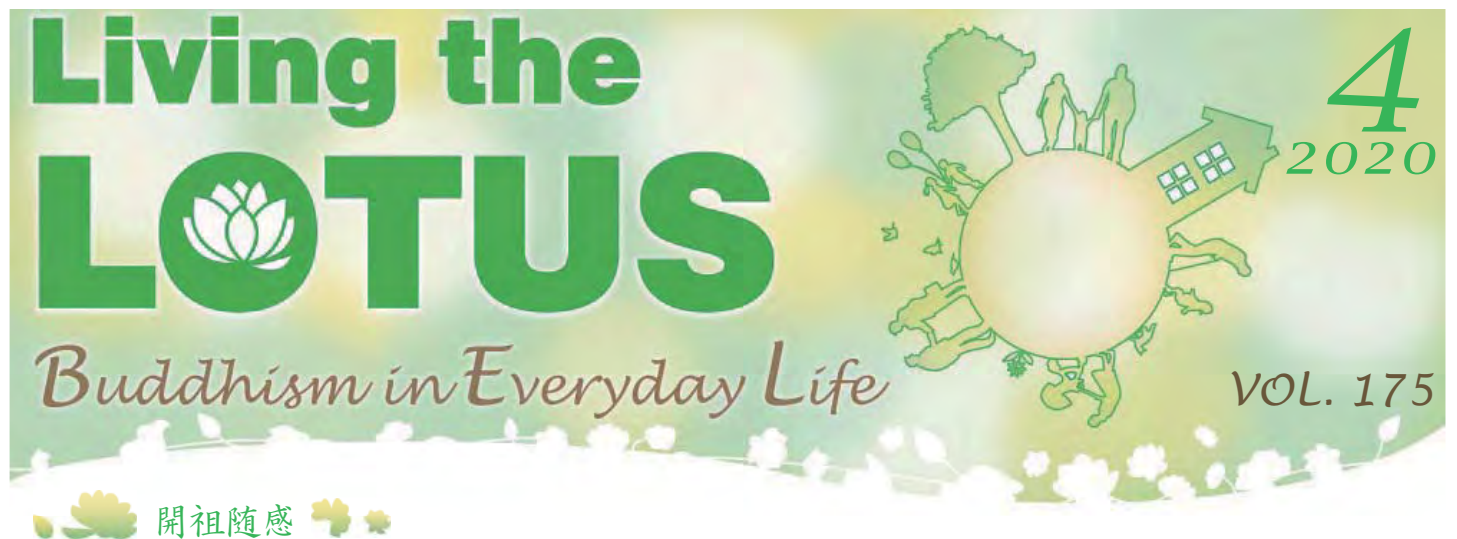




お手本の大切さ

よく人さまから「会長はどんな人に出てもよいところを見られ、どんなことに遭^あっても、いいほうに解釈されますが、何か秘訣^{ひけつ}があるのですか」と尋ねられることがあります。

秘訣といえるかどうか知れませんが、私はいつも、仏さまなら、こういう人にどう対されるか、こういうことに対してどう考えられるかと思い起して、その真似^{まね}をさせてもらおうとつとめてきました。

子どもは親の真似をして大人になりますね。弟子はお師匠さんをそっくり見習って一人前になっていくわけです。みなさんも、「あの人のようになりたい」

と思うお手本があったら、そっくりその人の真似をしていれば、いつのまにかそうになってしまうのです。

毎日出会う人、出会う出来事の一つ一つを、經典に照らしてそこに示されたとおりに実行していくのが、本当に法華經^{どくじゆ}を読誦^{しんどう}すること、つまり身読です。約二千五百年前に入滅された仏さまは、私たちの肉眼では見ることはできませんが、經典に示されたとおりに実行すると、目の前にその仏さまがありありと見えてくるのです。

(『開祖随感』9, P. 14-15)

Living the Lotus 2020年4月号 (Vol.175)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 長田健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部經を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華經を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華經の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



偏った見方を越える

立正佼成会会長 庭野日鏡

「自分は正しい」という偏り

ふつう私たちは、自分の考えや行動が間違っているとは思いません。人から「それは一方的な見方ですよ」と指摘されても、自分が、先入観や色眼鏡でものごとを見ているとは思えないものです。

それでも、たとえば自分にいつもやさしくしてくれる人の言葉は素直に信じられても、批判的な人の声は端から否定するのではないのでしょうか。自分の感情や都合を大事にするそういう見方や受けとり方を、私たちは多かれ少なかれしていると思います。これは、いうまでもなく自己中心の狭い見方です。この見方が高ずると「私の考えが正しい」「自分の判断は間違っていない」といったとらわれや偏見が強くなって、ものごとを正しく見る目がさらに曇ります。

そこで、そういうものの見方を省みるとともに、自己中心に偏りがちな視野を大きく広げる動機づけともなる、法華經の一節をご紹介します。

「等正覚を成じて広く衆生を度すること、皆提婆達多が善知識に因るが故なり」（私が仏の悟りを得て人びとを救えるのは、すべて提婆達多という善き友のおかげです）

「提婆達多品」の有名な言葉です。自分を敵視して殺そうとまでした提婆達多のことを、釈尊が感謝の思いをこめてサンガに伝える重要なくだりですが、これは私たちが、偏った見方から大きな見方へと心を切り替える、スイッチのような役割をもつ一節でもあると、私は受けとめています。





仏性をひたすらに信じる

深い闇^{やみ}の底にあった地平線^{しり}が白^{しろ}みはじめるころ、明けの明星^あの輝^{みょうじょう}きを受けて、釈尊^{しやくそん}は悟りを得たといわれます。そのとき釈尊のみ心は、おそらく明星輝^{ちゆうてん}く中天^{ちゆうてん}にまでのぼり、宇宙と一体となって、大いなる真理をつかまれたのです。

それは、宇宙的視座でものごとを見たということかもしれませんし、明星の輝^{みょうじょう}きが自他の仏性^{ぶつしょう}の輝きと重なったということかもしれません。いずれにしても、そのとき釈尊の目には、何もかもが美しく光り輝く仏性そのものという、この世の実相^{じっそう}がありありと映ったのではないのでしょうか。

そして釈尊は、提婆達多からの非難や攻撃という厳しい現実^{じつじょう}に直面するなかでもまた、心を天にのぼらせて、広く大きな心で提婆達多と向きあったのだと思います。

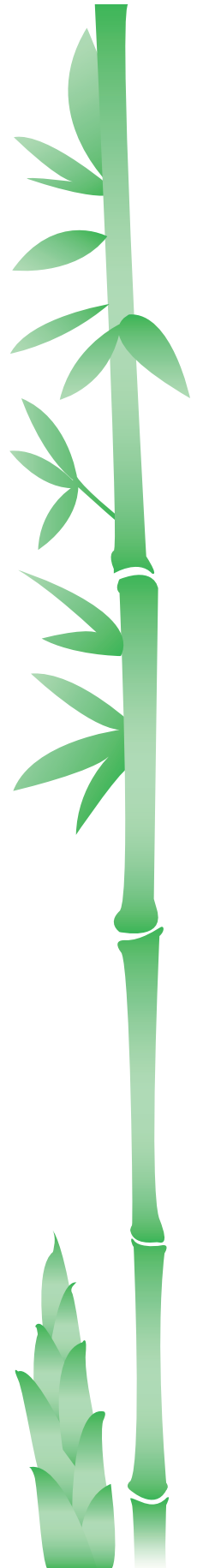
すると、その瞬間に「自分を害する悪い人」と見る自己中心の心が、スッと仏性を信ずる大きな心へと切り替わり、すべてに合掌^{がっしょう}・礼拝^{らいはい}せずにはいられなかった——そういう心の切り替えをうながしてくれた提婆達多は、釈尊にとって「善知識」以外の何ものでもなかったといえるでしょう。

「みんな仏性」という見方に立てば、偏った見方で人を傷つけたり、争ったりすることはありません。人を批判する前に、「そうか、あの人も仏性なのだ」と思い返すきっかけがあれば、偏った見方をして悩むこともないのです。

ただ、誤解されやすいのですが、仏性を信じるというのは、相手のいいところを見ることではありません。相手を、まるごと仏性として拝^{おが}むことです。すべての仏性をひたすらに信じるなかで、私たちは矛盾^{むじゆん}や葛藤^{かつとう}とも向きあい、人として成長していくのだと思います。仏教思想家の毎田周一師^{まいだしゅういち}は、「信ずる」ことについて「世には自分が相手を疑っていて／相手が自分を信じないと／小言をいっている人がある」「自分が人を信ずることによって／相手を信じさせること——／これを信の大道という」といっています。

よけいな先入観などをもっていなかった幼いころには戻れませんが、せめて花まつりの日に、釈尊降誕^{ごうたん}のお姿^{ほうふつ}を彷彿させる誕生仏^{じゆんしんぶつ}に接して、純真無垢な心を取り戻し、自他の仏性を深くかみしめることは大切でありましょう。

(『佼成』2020年4月号)





教を通して気づいた、いのちあることの喜び

ロサンゼルス教会
南 昇孝

この体験説法は、2020年3月5日に行なわれた
学林卒林式で発表されたものです。

皆さま、お願い致します。

私は日系アメリカ人、ロサンゼルス教会所属の信仰三代目、32歳です。家族は両親と妹とワンちゃん一匹です。私に学林入林のきっかけをくださったのは、学林本科を卒業されて現在はシアトルで拠点員をされているニック・オズナさんです。学林で学び、私の人生は変わりました。

ロサンゼルスで生まれ育った私は、成長するにつれ、アメリカと日本の文化の違い、特に言葉の違いから自分の思いが両親に十分に伝わらないことで悩むようになりました。学校では日本人と思われ、日本について質問されるのですが、私には答えられません。一方、家では、私の言動は両親にはアメリカ人そのものに映ったのでしょうか。なかなか理解してもらえませんでした。「なぜ自分は日本ではなくアメリカで生まれたのか」「そもそも、なぜ英語を話せない両親が渡米したのか」「なぜこんなに家族とのコミュニケーションが取りづらいのか」など、両親に対してたくさんの疑問がありました。

20代の前半、私は二つの国の文化や習慣の違いに上手く対処できずにいました。そのことを両親や友人に相談しても分かってはもらえず、自分は一人だと感じて寂しい思いをしました。誰よりも両親には自分の思いを伝えたかったのですが分かってもらえず、諦めの気持ちから次第に話す機会が少なくなり、たまに話してもやはり分かってもらえないため、ほとんど話さ

なくなりました。母は「これからはノリが自分で何をしたいか決めていいからね」と言ってくれましたが、親の期待に応えられる自信もなく「俺なんかに何ができるんだ?」と、母の言葉を聞くたびに責められているように感じ、自分のことも母のことも嫌いになりました。人生の目標を見出せず、ゲーマーになろうと思ったり、軍隊に入ることを考えてみたりと、その日さえ楽しければあとはどうでもいいと、自分の命の尊さを考えることもありませんでした。日々の生活も思い通りにいかず、常にイライラしていました。

私には自閉症でコミュニケーションが上手くとれない2歳下の妹がいます。妹の将来を心配しながらも、「一生俺が面倒を見るのは嫌だ」と思う自分がいました。妹のことを周りに理解してもらえない孤独や、妹の世話をしなければならない責任から解放されたくて、遊びに逃げることもしばしばでした。仕事にも興味が湧かず、ますます人生が嫌になり、自分なんて生きて



卒林式で説法する南さん

いても仕方がないと感じるようになりました。ある夜、「俺なんかいい方がいい」と自暴自棄になり、自殺する覚悟で目をつぶって高速道路を運転しました。しかし、しばらくして目を開けると、私はまだ生きていました。うれしさや悲しさなど、自分でもわけの分からないくらい様々な感情が湧いてきました。同時に、「なぜ俺は助かったのか?」「何のために俺は生かされているのか?」「生きている意味があるなら知りたい」——と、自分が「生かされている」ということを、言葉にできないほど強く感じたのです。その夜、私は泣きながら夢中で家に帰りました。

しかし、学林への入林が決まって日本に来た時、私の心にあったのは「これで家族や仕事から離れられる、新しい人生を見つけられる、やっと自由になれる」という解放感でした。

そんな私でしたが、学林の二年生になると、ご法に篤く布教熱心な鈴木孝太郎教会長さんのもと、青森県の八戸教会で布教実習をさせていただくことになりました。

ある日、岩村支部長さんに同行し、火災により23歳で亡くなられたAさんの一周忌のご供養に行かせていただきました。その日は暑い日でしたが、急に寒気を感じるという不思議な体験をしました。法座の始めから終わりまで、Aさんのお母さんが涙を流されている姿を見て、かつて自殺をしようとした自分を振り返り、命を粗末にはいけないと反省しました。もし自殺していたら、私を産み育ててくれた両親を永遠に苦しませ

ていたことに気付き、涙があふれてきました。同時に、自分が今生きていることがうれしく、両親や先祖に対する感謝で胸が一杯になりました。

また、目が不自由で脳に障害があるB君と出会えたことにより、自閉症を持つ妹を受け入れようと思えるようになりました。B君の家族が、B君を家族の一員として大切にされている姿に接し、私の家族にはない優しさを感じました。そして、私も優しい気持ちで妹とふれあうことができたなら、家族の関係も良くなるに違いないと感じました。B君とのご縁のおかげさまで、障害があるなしに関係なく、その人のありのままを受け入れることが大事だと心から思えるようになりました。

布教実習を通して私は二つのことを学びました。一つは命の尊さ、もう一つは妹が私にとっていかに大切かということです。

昨年の大晦日に母から国際電話があった時、私は自分の思いが家族に伝わらず苦しんでいたことを打ち明けました。母とこんなに深く話ができしたのは、その時が初めてでした。母と私には似ている点がたくさんありました。母は強い人だと思っていましたが、自分の娘が自閉症であることを受け入れられず、人生が嫌になって自殺まで考えたことを話してくれました。母のつらかった思いを聞かせていただき、また自分の気持ちを日本語で母に伝えることもでき、初めて本当の親子であることを実感しました。なかでも一番うれしかったのは、母が私に「ノリ生きていてくれて、ありがとう」と言ってくれたことです。うれしくて涙があふれました。

法華經を深く学ぶ中で、日本語だけでなく英語による教えの理解も深まり、かつての私の諦めの人生は、悦びの人生に変わりました。「自分が変われば相手も変わる」との教えのとおり、私が変わると、母も一緒に変わりました。母と私は法華經を通じて共に成長し、法華經から勇気と希望をいただきました。学林で学ぶ前は、自分のことも家族のことも受け入れられず、生きていても仕方がないと自殺まで考えた私ですが、今では、将来、素敵な人に出会って、家族みんなで幸せになりたいと思えるようになりました。

会長先生は年頭ご法話で「即是道場——自分が居る所、住んでいる所、身を置く所、すべてが道場」とご指導くださっています。私は卒林後、ロサンゼルスに戻ります。家族がいるロサンゼルスで私の新たな修行が始まります。学林で学んだことを生かし、誰に対し

ても分け隔てない心を持ち、誰もが集える教会のサンガづくりを進めていきたいと思います。一人ひとりの仏性を拝むことを、そのための修行の第一歩とします。そして、一人でも多くの人が苦しみや悩みから救われるように精進してまいります。

本日は、海外修養科26期生4名を代表してお説法のお役をいただき、ありがとうございました。スリランカのラジッタ、バングラデシュのカノン、そしてショットジツ、二年間、支えてくれてありがとう。これからも一緒に、世界平和を築くために教えを広めていきましょう。

学長先生、次長さん、講師さん、スタッフの皆さん、本科の皆さん、修養科の後輩たち、お父さん、お母さん、そして妹のいくちゃん、ありがとうございました。

皆さま、本日は本当にありがとうございました。



学林海外修養科生の仲間たちと(中央)

Living the LOTUS



法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經 安樂行品第十四

前の《勸持品第十三》において、菩薩たちが、今後のさまざまな迫害を予想し、それに対する覚悟を述べたのに対して、お釈迦さまが、「いつも安らかな心で、みずから進んで法を説け」とお教えになり、そのための具体的な心構えをこまごまとお説きになり、結論として、〈法華經の教えを心から信じ、身に行なえば、いかなる困難をも超越した安らかな心境に達することができ、色心不二の法則によって、その安らかさは身体のうえにも、生活のうえにもあらわれてくる〉ということを保証されるのが、この品です。

四安樂行

文殊菩薩が、「陰悪な後の世において、どうすればよくこの法華經を説くことができるのでございましょうか」と釈尊に質問しました。その質問に釈尊がお答えになったのが、菩薩にとっての四つの基本的な心得(四安樂行)というわけです。

第一は〈身安樂行〉といい、自分自身の身のふるまいについての基本的な心得(行処)と、世間の人びととの交際において必要な基本的な心得(親近処)とからなります。

第二は〈口安樂行〉といい、言葉遣いや、口にしてはならないことなどが戒められます。

第三は〈意安樂行〉といい、嫉妬や、へつらい、他者への悪意をなくし、常に安らかな意で法を説きなさいと戒められます。

第四は〈誓願安樂行〉といい、すべての人を仏の道へと導こうという誓願を起こし、その誓願に向かってまっしぐらに行きなさいと、お諭しくださるのです。



髻中明珠の譬え

この品のお説法の中に、〈法華七論〉の第六である〈髻中明珠の譬え〉があります。その大意は、

「強大なある国の王が、意向に従わぬ国々を次つぎに討伐しました。それらの戦いに手柄を立てた将士には、領地や、田畑や、王が手足に着けている装飾品など、いろいろな宝物をほうびとして与えましたが、王の髻の中に結いこめてある宝玉だけは、だれにも与えませんでした。それがあまりにも尊い物であるために、もしそれを与えたならば、もらった人も、ほかの家来たちも、ただびっくりし、当惑するに決まっているからです。

わたしが、法華經をなかなか説かなかったのは、ちょうどこのような理由によるものです。これまでさまざまな教えを皆さんに説いてきました。それによって、心が安定して動揺しない境地や、人生苦から超越した境地や、すべての煩惱を除き尽くした境地など、いろいろ貴重なものをほうびに与えました。しかし、法華經の教えだけはなかなか説きませんでした。説いてみても、皆さんが当惑するばかりだったからです。

ところが、この王は、最終的にすばらしい大功を立てた者に対しては、髻の中に結いこめたその宝玉を惜しげもなく与えるのですが、わたしもその王のようであって、すでに皆さんの境地が非常に高まってきましたので、最後のほうびとして、いまこそ最高の教えである法華經を説いてあげるのです」

精神はとらえにくいが最も大切

この譬えの表面だけを読みますと、「法華經は最高至上の教えである」という讃歎と、「だから、めったなことでは説かなかったのだ」という理由づけの言葉としか受け取れませんが、やはりこの中には人生に対する教訓がいろいろと含まれているのです。

第一に、ほかの宝物は、王の手足に着けた物や、単なる所有物にすぎませんでしたが、その宝玉（明珠）だけは、王の〈頭にある物〉でした。頭とは精神の宿るところであり、身体全体を支配するところです。手足などは普通の人でも自由に使いこなせますが、精神というものは、いちばん貴重なものでありながら、つかまえどころがないだけに、なかなかの難物です。



しかし、この精神というものをしっかりとらえ、^{ちょうぎょ}調御し、高めていかないかぎり、立派な人間とはいえないのです。人生の至高の目的は、〈頭にあるもの〉すなわち精神をよりよくしていき、ついには人格を完成すること(仏になること)にあるのだということを、この譬えから汲み取らねばなりません。

最高の奥義は最後に

第二に、法華經は、人間でいえばちょうど精神にあたるようなもので、最高の奥義であるために、それを理解できるほどに境地が進んでいない人に与えようとするれば、かえって混乱や疑惑を生ずる……ということが、この譬えに述べられていますが、これは世俗のいろいろな学問や技術の勉強についても、同じことがいえるのです。

初歩の人に、初めから最高の奥義を教えようとするれば、聞いた人はなんのことやら分からず、とうていついていけないので、途中からやめてしまう人が続出するでしょう。ですから、教える側にしてみれば、ごくごく初歩のやさしいことから入って、だんだんに修練を積ませた後、いちばん最後の段階で、ギリギリ最高の奥義を教えなければなりません。そのことが、この譬えの中に暗示されているのです。

基礎的な修行の重要さ

これをひっくり返して、修行する側の心得として見れば、〈基礎的な修行こそ、最高の奥義に達するた

めに必要欠くべからざるものである〉ということになります。現代の人間、特に高等教育を受けた若い人たちは、とにかくこうした基礎的な修行を嫌がり、いきなり高いところへゆきたがります。そのため、人間としても、職業人としても、中途半端な存在となってしまうのです。基礎的な修行こそ、大成のための絶対必要な条件であることを、この譬えの中から学びとらなければならぬと思います。

(庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』

佼成出版社、2016年〔初版 1991年〕, p. 141-147)



仏性をひたすらに信じる

釈尊降誕会の月を迎えました。お釈迦さまのお誕生をお祝いするとともに、一人ひとりの尊いいのちを自覚する大事な時でもあります。自らの仏性を自覚し、世のため・人のために自らのいのちを精一杯輝かせて生きる決意を新たにさせていただきたいものです。

今月の会長先生のご法話では、提婆達多品のお言葉を引用され、「偏った見方を超える」ことの大切さをご指導いただきました。「みんな仏性」との見方に立ち、すべてをありのままに仏性として拝み、相手を信じ切ると、視野が広がり偏見も無くなり、物事を正しく見られるのです。

人間本来のところに気づくために、自他の仏性を深くかみしめられるひと月にいたしましょう。

国際伝道部長
齋藤 高市



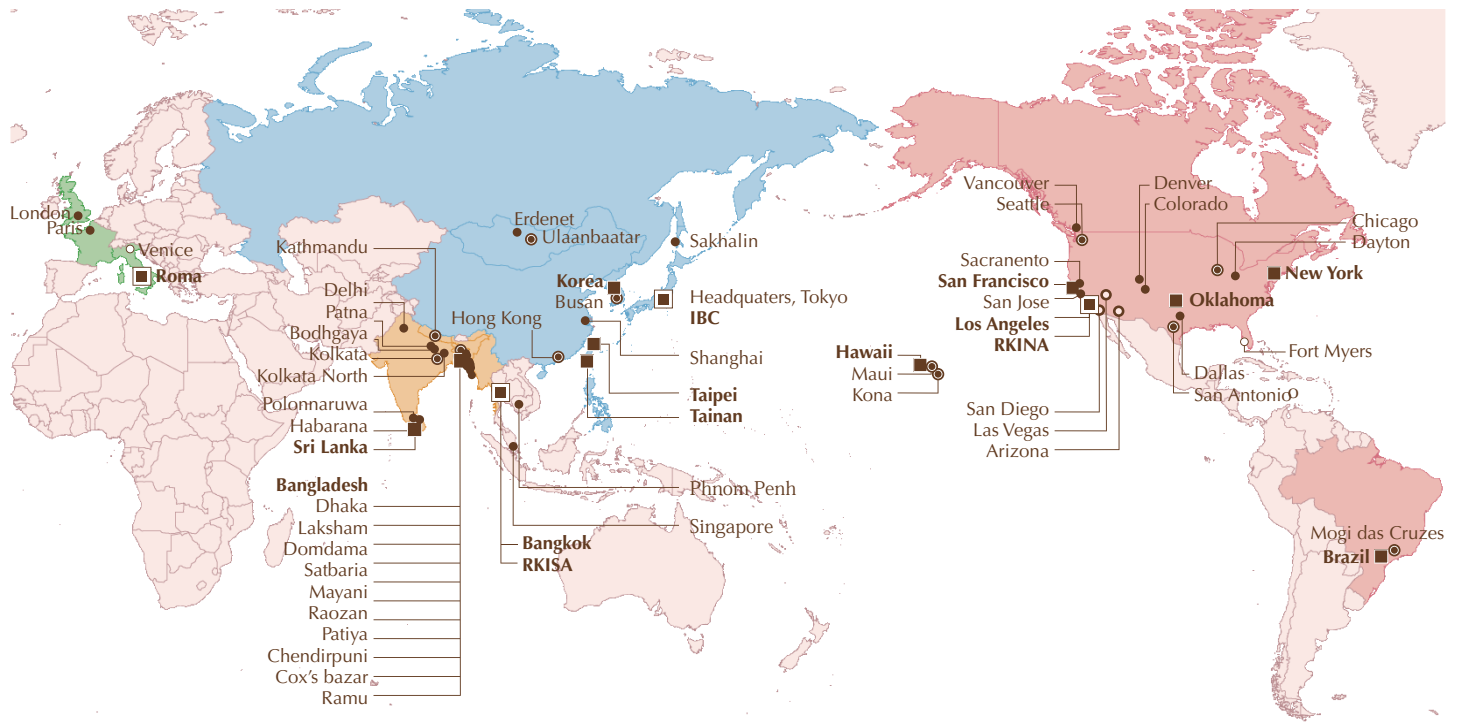
✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp



Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA

TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633

Email: info@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA

TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA

TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA

POBox 33636, CA 90033, USA

TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567

Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA

POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA

TEL: 1-650-359-6951 FAX: 1-650-359-6437

Email: info@rksf.org URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA

TEL: 1-212-867-5677 Email: rknny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA

TEL: 1-773-842-5654

Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA

POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA

TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303

Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA

TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA

URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA

TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437

Email: info@rkina.org URL: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA

(Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA

TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745

Email: dharmasanantonio@gmail.com

URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA

TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261

Email: rkseattlewashington@gmail.com

URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil

TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377

Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Rissho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia

TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

2F Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum,
Orkhon province, Mongolia

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>